

■原子力センター構想(仮称)の理念・視点【第1次案・意見公募用】

〔 原子力に関するサイエンスと人づくり等の拠点として世界に貢献する『21世紀型の新たな“COE(Center Of Excellence)”』と
なることを目指し、併せて、このような原子力と地域社会とが調和したまちづくりを推進 〕

東海村の特徴(東海村らしさ)

- 我が国の原子力を半世紀にわたって先導(パイオニア)し、原子力利用の重さも体感(＝大事故を経験)
- 原子力の研究開発を総合的に実施できる高度な人材と施設・設備が集積(世界的にも稀有)
- 多くの科学者・技術者がこの地域に終の棲家を得ており、地域社会と原子力が融合し文化が創造されつつある

第1ステージ

20世紀型

- 右肩上がりの経済
- これに呼応した原子力のエネルギー利用の拡大
(原子力の研究開発や原子力発電の開始から、核燃料サイクルの事業化まで)
- 東海村は、国主導の下での「原子力センター」

社会的背景の変化

- 地域主権
- 経済至上主義からの脱却
(真に豊かで持続可能な社会)
- 福島原発事故、これを受けた国の「脱原発依存」の基本方針

期待と役割

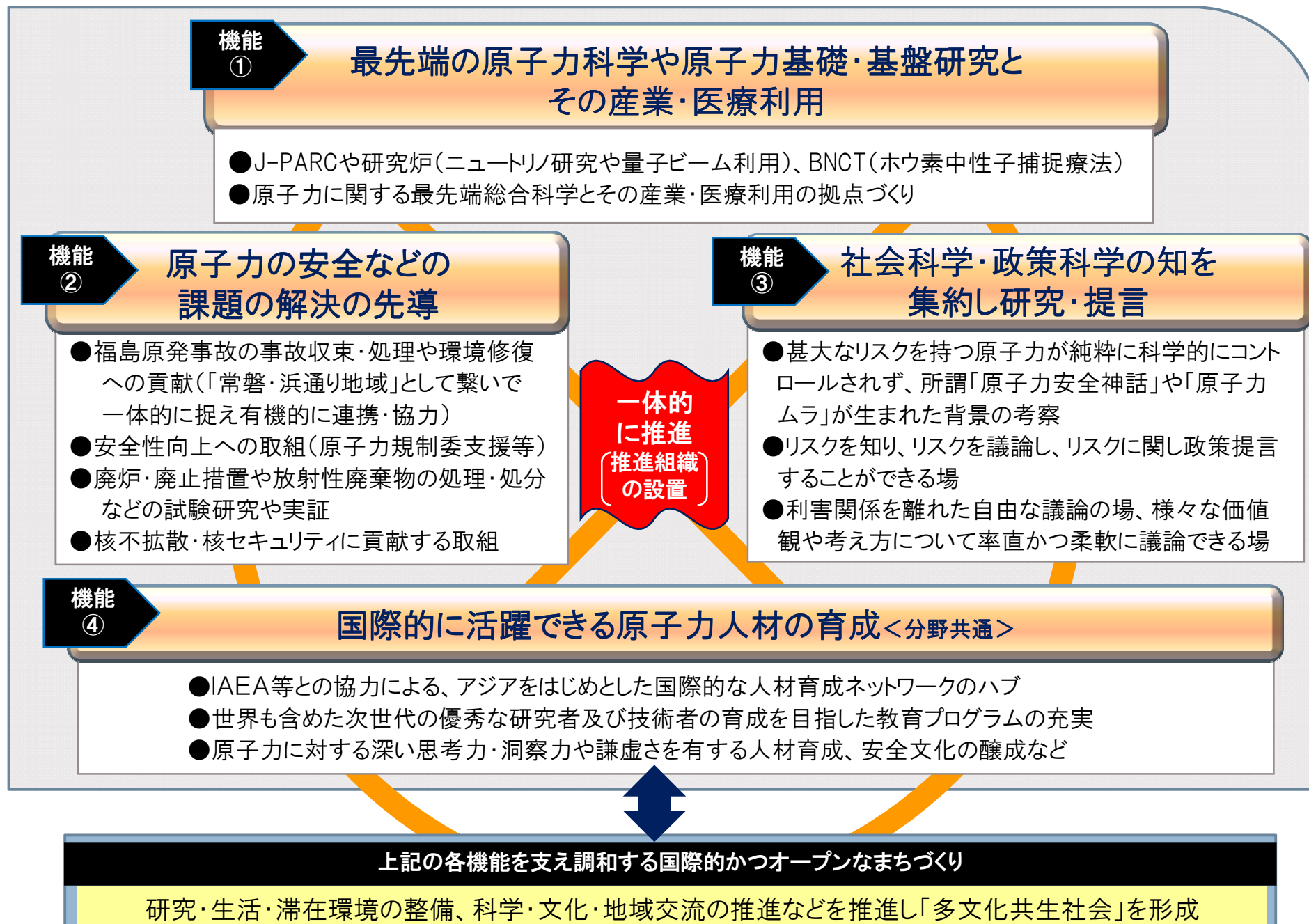
- 原子力に関するサイエンスと人づくり等の分野で世界に貢献
- 地域社会と世界の安全・安心のため出来ることは何か

第2ステージ

21世紀型

- 地域社会が主体となって提言・行動する原子力とまちづくり
⇒ 総合的な将来ビジョンを策定し、原子力と地域社会の新しい共存関係や、地域社会と国との新たな友好関係を構築して、各種取組を推進
- 「文化的な価値」や「社会的な価値」の重視 ⇒ 即効的な経済効果は求めない
- 2つのキーワード
 - “東海村らしさ”を活かす
 - 国際化・オープン化

■原子力センター(仮称)が有する機能等【第1次案・意見公募用】



■本構想に基づく取組(今後具体化)

□ 推進体制

- 東海村(行政)は、本構想の率先牽引役、あるいはコーディネーターとしての役割を果たしていく
- 東海村、茨城県、周辺市町村や関係府省、JAEAや大学などの関係機関により構成する「推進会議」を立ち上げる
- 本構想に基づく各種取組(プロジェクト)を協働で積極的に進めていく

□ 先導プロジェクトの例

- 原子力に関する最先端総合科学とその産業・医療利用の拠点づくり
- 福島原発事故に関する事故収束・処理や環境修復への貢献(地域社会の間での連携も交えた総合的な取組)
- 地域社会における原子力安全と原子力防災のモデルづくり
- 原子力に関する社会科学の拠点づくり
- 国際的な原子力人材育成プログラムの企画・推進
- まちの国際化プログラムの策定・推進(TOKAIビジターセンター、宿泊施設や地域公共交通の確保・充実、交流機会の質・量の充実、etc…)
- 原子力サイエンスの学ぶ場づくり(TOKAI原子力サイエンスツアー)

■本構想を纏める際の留意点

- 名称(検討に当たってのポイント)
 - 原子力サイエンスと人づくり等の拠点として世界に貢献
 - 原子力とまちづくりの総合的な将来ビジョン
 - 英語に翻訳した時に外国人にもイメージが想像できる
 - ⇒ 名称についても意見公募
 - ⇒ 上記ポイントを考慮し公募結果等も踏まえて村長が決定